

Musical instrument Top : concerning the translation of top in ezeziel 23:13

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2014-10-28 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 佐々木, 哲夫 メールアドレス: 所属:
URL	https://tohoku-gakuin.repo.nii.ac.jp/records/259

旧約聖書の楽器トフ

—エゼキエル書 28 章 13 節の翻訳を巡って—

佐々木 哲夫

1 はじめに

ヘブル語のトフ (tōp תוף) は、旧約聖書において 17 回記されている。¹⁾ 邦訳聖書では「太鼓、小太鼓、鼓」(新共同訳)、「タンバリン」(新改訳)、「鼓、手鼓、タンバリン」(口語訳)などの邦語を用いて翻訳されている。旧約聖書ヘブル語辞典を参照するならば、トフは、例えば "hand drum, timbrel, tambourine" と説明されているように、多義語でなく単義語である。²⁾ また、語源の解説や同族語の比較からも、打楽器の一つであると考えられる。ウガリト語の tp が、豎琴や笛やシンバルなどの楽器と共に表記され、手打ち太鼓の楽器と説明されているとおりである。³⁾

本論文は、トフの旧約聖書における用例を参照しつつ、その邦訳語「太鼓、小太鼓、鼓、タンバリン」の意義を明らかにし、特に、エゼキエル書 28 章 13 節のトフの解釈について考察するものである。

2 トフの用例

トフの用例一覧表と略記号一覧を以下に示す。トフが表記されている文脈では、他の楽器や歌や踊りなどが少なからず併記され、喜びの感情 (הִתְקַדְּשׁוּ) が露にされている。例えば、サウルとダビデの凱旋を迎える女たち (サム上 18:6) や父エフタの凱旋を迎える娘 (士 11:34) は、トフを打ち鳴らしつつ踊っている。凱旋する戦士のイメージは、ファラオの軍勢を海へ投げ込み (出 15:2) アッシリアを打ち砕く (イザ 30:32) 主のイメージと重なり、主への賛美の伴奏楽器としても用いられている (詩 81:3, 149:3, 150:4)。トフは、平和の喜び (エレ 31:4) を表現するだけでなく、宴会 (イザ 5:12, 24:8, ヨブ 21:12) や歓送 (創 31:27) など日常の場面でも用いられる。楽団を先頭にして下ってくる預言者達の一団は、楽器を奏しつつ恍惚状態で預言しているが、その状態は行進できない程ではない (サム上 10:5)。⁴⁾ 神の箱との行進場面で多様な楽器が奏されたように (サム下 6:5, 代上 13:8)、喜びの感情を豊かに表現するためにトフが用いられた。笛

や歌がメロディーを提供するとするならば、トフは、感情の力強さや高揚を与えたのである。⁹⁾ 他の楽器や歌や踊りの併記がなく、文脈の主題も他の用例と異なる箇所がエゼキエル書 28 章 13 節である。この箇所の詳細については後述する。

箇所	新共同訳	新改訳	口語訳	併記されている楽器など
創 31:27	太鼓	タンバリン	手鼓	弦 K 歌 S
出 15:20	小太鼓	タンバリン	タンバリン	歌 S 踊 M
士 11:34	鼓	タンバリン	鼓	踊 M
サム上 10:5	太鼓	タンバリン	手鼓	弦 K, 弦 N 管 HL
サム上 18:6	太鼓	タンバリン	手鼓	弦 S 歌 S 踊 M
サム下 6:5	太鼓	タンバリン	手鼓	弦 K, 弦 N, 弦 'B 打 MN, 打 T
イザ 5:12	太鼓	タンバリン	鼓	弦 K, 弦 N 管 HL
イザ 24:8	太鼓	タンバリン	鼓	弦 K
イザ 30:32	太鼓	タンバリン	鼓	弦 K
エレ 31:4	太鼓	タンバリン	鼓	踊 M
エゼ 28:13	留め金	タンバリン	象眼	
詩 81:3	太鼓	タンバリン	鼓	弦 K, 弦 N
詩 149:3	太鼓	タンバリン	鼓	弦 K
詩 150:4	太鼓	タンバリン	鼓	弦 K, 弦 M, 管 'U 踊 M
ヨブ 21:12	太鼓	タンバリン	手鼓	管 'U
代上 13:8	太鼓	タンバリン	手鼓	弦 K, 弦 N 管 HT 打 MT 歌 S

略記号

邦訳語 [新共同訳聖書]

- 弦 K..... 竪琴 (כַּנּוֹר)
- 弦 N..... 琴 (נֶבֶל)¹⁰⁾
- 弦 'B..... 糸杉の楽器 (עֲצֵי בְרוֹשִׁים)
- 弦 M..... 弦 (מִן)
- 弦 S..... 三絃琴 (שָׁלִישׁ)
- 管 HL..... 笛 (חֲלִיל)
- 管 'U..... 笛 (עוּבָב)
- 管 HT..... ラッパ (חֲצוֹצְרָה)
- 打 MN..... カスタネット (מִנְעֻנְעִים)

打 T.....	シンバル (צִלְצָלִים)
打 MT.....	シンバル (מִצְלָתִים)
歌 S.....	歌 (שִׁיר)
踊 M.....	踊り (מַחֲלָה)

3 トフの邦訳語の意義

本節では、手に持って踊りながら打ち鳴らす楽器トフの邦訳語として「太鼓、鼓、手鼓、タンバリン」のいずれが妥当であるかについて考察する。新改訳聖書が一貫して用いている邦語「タンバリン」は、読者に「胴に小さなシンバルを付けた極めて浅い小型の片面太鼓」という楽器のイメージを与える。タンバリンが鈴付きの形状に整えられた時期は明確ではないが、紀元二世紀のローマのレリーフには今日のタンバリンとほぼ同形の楽器が彫刻されている。⁷⁾ それ以前は、鈴が付いていない単純なものだった。例えば、Zinjirdi から発掘された紀元前八世紀のレリーフには軍楽隊員と思われる四人の演奏者が浮き彫りにされており、その中の二人は「hand drum」を叩いている。⁸⁾ また、バビロニア出土の羅針盤座のレリーフには、琴や笛の奏者と共に hand drum を持つ女性が浮き彫りにされている。⁹⁾ いずれのレリーフにおいても、hand drum には、小さな鈴は付いていない。現代における打奏太鼓は、テンパニーのような鍋型、打奏道具や手で打って奏する歩兵傭兵太鼓のような筒型、そして、タンバリンが属する杵型の三種類の共鳴器に分類され、後者に関しては「タンバリンの杵には鈴の付くことも多い」と解説されている。¹⁰⁾ すなわち、タンバリンという楽器名称は、手に持って手打ちする杵型の片皮太鼓に対する総称であり、杵に鈴が付いているかは決定的特徴ではない。

他方、新共同訳聖書が用いている邦語「太鼓」は、日本語聖書の読者に対し、和太鼓や団扇太鼓のような楽器のイメージを与え、また、「鼓、手鼓」ならば、能楽の世界で使用される日本特有の小鼓や大鼓を連想させる。いずれにせよ、邦語の「太鼓」には、大太鼓から小太鼓、また、ヨーロッパ系からアジア系に至るまでのさまざまな太鼓が含まれることになる。¹¹⁾ トフの有する語義は、前節の用例を参照するならば、手に持つ奏者が踊ったり行進しながら演奏できる楽器であり、「太鼓」よりは「タンバリン」の邦訳語の方が、語義範囲を限定していると考えられる。無論、この場合のタンバリンの杵に小さなシンバルは付いていない。

4 エゼキエル書 28 章 13 節のトフ

エゼキエル書 28 章 13 節のトフの用例は特異である。なぜなら、楽器や歌や踊りが併記されない唯一の箇所であり、また、主への賛美や喜びが文脈の基調となっていないからである。主題は、ティルスに対する嘆きである。特に、13 節は、ティルスの罪深さを暗示的に浮き立たせようとしているかのように、神の園エデンの無垢できらびやかな情景が描写されている。当該箇所の邦訳とヘブル語本文を以下に引用する。

お前は神の園であるエデンにいた。あらゆる宝石がお前を包んでいた。

ルビー、黄玉、紫水晶／かんらん石、縞めのう、碧玉／サファイア、ざくろ石、エメラルド。それらは金で作られた留め金で、お前に着けられていた。それらはお前が創造された日に整えられた。
(新共同訳)

あなたは神の園、エデンにいて、あらゆる宝石があなたをおおっていた。

赤めのう、トパーズ、ダイヤモンド、緑柱石、しまめのう、碧玉、サファイヤ、トルコ玉、エメラルド。あなたのタンパリンと笛とは金で作られ、これらはあなたが造られた日に整えられていた。
(新改訳)

あなたは神の園エデンにあって、もろもろの宝石が、あなたをおおっていた。

すなわち赤めのう、黄玉、青玉、貴かんらん石、緑柱石、縞めのう、サファイヤ、ざくろ石、エメラルド。そしてあなたの象眼も彫刻も金でなされた。これらはあなたの造られた日に。あなたのために備えられた。
(口語訳)

בַּעֲדֵן גַּן־אֱדֵן הָיִיתָ כָּל־אֲבָנֵי יִקְרָה מִסָּבִיב
אֲדָם פִּטְרִיהַ וְיִהְיֶה הַתְּשִׁישׁ שְׁהֵם וְלִשְׁפָה סִפִּיר נִפְךָ וּבְרִקַת
וְזָהב מְלֵאכֶת תְּפִיף וְנִקְבִיךָ כִּף בְּיוֹם הַבְּרָאָה כּוֹנְנִי

(BHS)

問題は、三行目に記されている **וְנִקְבִיךָ** である。原語のニュアンスを残す直訳を試みるならば、最初の **תְּפִיף** は「あなたのトフ」、次の **וְנִקְבִיךָ** は「また、あなたの穴」であり、全体は「あなたのトフとあなたの穴」と試訳される。しかし、これでは意味不明となるので、さまざまな解釈が試みられることになる。例えば、**תְּפִיף** の子音を書き換えて **פְּתוּחִיךָ** と読む操作を施し、「あなたの刻まれた物」すなわち「あなたの象眼」と解し、¹²⁾ その解釈との連関で **וְנִקְבִיךָ** を「あなたの彫刻」と解したのが口語訳聖書の翻

訳「あなたの象眼も彫刻も」である。しかし、子音の書き換えという操作は適切な手法ではなく、聖書解釈においては極力マソラ本文を保持するよう努めるべきと考える。すなわち、**קִרְבָּן** をそのままの綴りで解釈する試みである。¹³⁾ ところで、**קִרְבָּן** との調和を図るため **קִרְבָּן** を楽器であると解したのが新改訳聖書の翻訳「あなたのタンバリンと笛」である。穴があいている楽器の笛と理解したのである。¹⁴⁾ 他方、**קָבֶן** を台座に宝石を固定させるための「飾り額」、また、**קִרְבָּן** を台座と解し、**קִרְבָּן וְקִרְבָּן** を二詞一意のように訳出したのが新共同訳聖書の翻訳「留め金」である。¹⁵⁾

原文の **קִרְבָּן וְקִרְבָּן** の明示的な意味を確定できないのだから、いずれの邦訳も可能であると言わざるを得ない。そこで、エゼキエル書 28 章 13 節の前後の文脈を参照しつつ考察をさらに試みる。当該文脈の主題は、「主なる神はこう言われる。お前は自分の心が神の心のように思い込んでいる。それゆえ、わたしはお前に対して諸国の中でも最も暴虐な外国人を立ち向かわせる。彼らはお前の知恵の誇りに向かって剣を抜き、お前の栄華を汚し、お前を陰府に突き落とす。お前は海の真ん中で切り倒されて死ぬ」(新共同訳、28:6-8) と記されているように、ティルスへの裁きである。13 節は、罪を犯す以前のティルスについて語っている。しかも、墮罪後のティルスの姿とアイロニカルに関連していると思われる。すなわち、「お前の心は美しさのゆえに高慢となり、栄華のゆえに知恵を墮落させた」(新共同訳、28:17a) と記されているように、富と栄華に酔いしれて高慢となり自らを神であると思い込んだティルスと、トフとの関連性である。トフは宴会で奏せられる楽器である (イザ 5:12、24:8)。無垢な者の居場所であるエデンの園に備えられてあるトフと笛は、その場所に相応しく金で作られた最高のものである。しかし、そのトフと笛が、富める罪人の宴会に使われる楽器であることを逆説的に暗示しているのではないだろうか。単義の意味を有するトフを他の用例と同じように楽器と理解する可能性は、エゼキエル書 28 章 13 節においても存在すると考えるのである。

注

¹⁾ 創 31:27、出 15:20 (2)、士 11:34、サム上 10:5、18:6、サム下 6:5、イザ 5:12、24:8、30:32、エレ 31:4、エゼ 28:13、詩 81:3、149:3、150:4、ヨブ 21:12、代上 13:8。

²⁾ 例えば、*The Hebrew and Aramaic Lexicon of the Old Testament* (Leiden: Brill, 1994), 4:1771f.

³⁾ KTU 1.108:4., *Theological Dictionary of the Old Testament* (Grand Rapids, Michigan: Eerdmans, 2006 [orig. 1994-1995]), 15:738., 小坂橋又久『古代オリエントの音楽—ウガリトの音楽文化に関する一考察—』(リトン、1998年) 58~60、75~76頁。

⁴⁾ David T. Tsumura, *The First Book of Samuel* (Grand Rapids, Michigan: Eerdmans, 2007), 286f.

- 5) 『古代オリエントの音楽』143-145頁。
- 6) 佐々木哲夫「旧約聖書の楽器ネベル—琴か豎琴か—」『東北学院大学宗教音楽研究所紀要』第11号、2007年3月、6~12頁。
- 7) 『ニューグローヴ世界音楽大事典』講談社、1994年、第10巻401頁。
- 8) J. B. Pritchard, *The Ancient Near East in Pictures* (Princeton: Princeton University Press, 1969), 63, 272.
- 9) Pritchard, *Ibid.* 346, 375.
- 10) U. ミヒュルス編『図解音楽事典』白水社、1989年 (orig.1977)、33頁。
- 11) 黒沢隆朝『図解世界楽器大事典』雄山閣出版、1972年、102~31頁。
- 12) *The Hebrew and Aramaic Lexicon*, 1772.
- 13) *Ibid.*
- 14) *The Dictionary of Classical Hebrew* (Sheffield: Sheffield Academic Press, 2001), 5:747.
- 15) *Ibid.*